



活動関連記事(抜粋)など

神戸新聞

2008年12月10日

人

「流れている音楽を聴き、関西を拠点に作曲活動を始め、
いて、自分には見えない。阪神・淡路大震災の発生日は、東
光を想像できたように感じ、東引越した直後だった。「自分
じた。会場に来て良かった。ただが難を逃れた後、めたさがあつ
た。学生たちからよく遊び、あ
た。神戸ルミナリエの演出
こがれた神戸の街。テレビで
音楽を担当して二年目、状を見て「人が人を治すこともおな
新聞でこんな投稿があつ
かを感じた。こんな状況に今の音
たを知った。「いから作
たのか」と悩んだ。その四年後、ル
ルミナリエの音楽は、十年で七十
曲ほど作った。「音符を書き過ぎな
いよう気を付けている」。できるだ
けシンプルに、「書けば響くほど思
いが伝わるように」。聴き手の想像力
が湧き込む「余白」を残す。
意識した。今年は十年目。「一番
育った。幼稚園から音楽に親しんだに始まる追悼コンサートは今回初め
がピアノを習う男子はほとんどいて一般から合唱団を募った。
なかった。京都市立芸術大学音楽学 東京都世田谷区で妻と暮らす。五
郎で学び、三年間の東京生活を経て、十二歳。」 (菅見真一郎)

神戸ルミナリエの音楽を担当して10年目を迎えた作曲家

上田 益さん



朝日新聞

2009年1月16日

レクイエム歌い続ける

80人、被災者自ら発信

阪神大震災から14年を迎えてもなお深まる悲しみと向き
る17日、被災者約80人が神
戸市内でレクイエム（鎮魂
歌）を響かせる。歳月を重ね
が「震災の日」の闇を照らす



追悼コンサート「いのりのとき」に
向けて練習する合唱団のメンバーた
ち。神戸市灘区、西畑市立撮影

「ここを寄せ合う時、涙
は祈りになる」
同市灘区で17日夜、被災者
たちが作曲家上田益さん(63)
のレクイエム「祈りの時」を
合唱していた。そのなかで、
1年半前に夫・豊さん(享年
69)を亡くした角江千子さん
(70)「兵庫県芦屋市」がい
た。
震災で角江さんと精神科医
だった豊さんは別居だった近
所の人を何人も失った。角江
さんは豊さんに誘われて7年
から西宮市で開かれた追悼コ
ンサートに参加し、鎮魂の風
いが歌で表現できることに気
づいた。
♪祈りは歌になる 歌は、
希望になる
05年秋、豊さんは咽喉がん
の手術で声ほとんど出なくな
った。それでも、角江さん
と翌年の追悼コンサートで歌
った。「あの日のことを伝え
たい」と言い続けていた豊さ
ん。角江さんは「夫の分まで
歌い継ぎます」と誓う。
レクイエムを作った上田さ
んは震災の日に合わせてコン
サートを過去4回、神戸で開
いてきた。14年を迎え、「悲
しい」と参加者を公募し、
「祈りの時」や「あの日の悲
しみを忘れない」などの作曲
を手がけた。17日のコンサー
トでは、中学1年生から75歳
までの男女約80人がこれらの
曲をアンサンブルで歌う。
古田多美さん(46)「神戸
市須磨区」は長女の友絵さん
(17)と参加する。震災直後に
椎間板ヘルニアが再発し、約
2年前にはがんの疑いがある
と診断された。引つらみ思案
だが歌が好きで友絵さんと一
緒に過ごす時間を増やしたい
と思った。
昨年7月に始まったコンサ
ートの練習で、参加者が「震
災の時、もつとできることが
なかったのか」と語ったのを
聞き、苦しいのは自分だけだ
ないと気づいた。
♪涙の雫は新しい星が生
まれる 涙の意味を忘れない
(あの日の悲しみを忘れない
り)
古田さんは一人の席を脱
ぎ、少しずつ自分の席に向
き合えるようになった。多く
の人の希望になるように歌い
てきた。14年を迎え、「悲
しい」と語る。(末光祐)

追悼コンサートに向け練習する三浦有朋東さん(前列左)と奥村君(同右) 神戸市東区で10日、小松進介撮影

守られた命感謝

生まれてきて良かった

阪神大震災時、母のおなかから生まれた赤ちゃんが17日、追悼コンサートで神戸市東区に帰る。神戸市東区の市立東区立中学校、三浦有朋東さん(13歳)と奥村君(13歳)は、震災から13年、同校の音楽部で練習中。

「生まれてきて良かった」という言葉が、震災から13年たった今、神戸市東区に帰る赤ちゃんの母、奥村君(13歳)の口から出てきた。奥村君は、震災当時、母のおなかから生まれた赤ちゃんが、17日、追悼コンサートで神戸市東区に帰る。神戸市東区の市立東区立中学校、三浦有朋東さん(13歳)と奥村君(13歳)は、震災から13年、同校の音楽部で練習中。

【神戸市東区】

◆神戸・活動初年度の練習風景 (2008年11月22日)



産経新聞 2010年12月2日

神戸に響け レクイエム

被災者らの合唱団 ルミナリエに3曲

「被災者」の合唱団「ルミナリエ」が、神戸市東区で10日、追悼コンサートで神戸市東区に帰る。神戸市東区の市立東区立中学校、三浦有朋東さん(13歳)と奥村君(13歳)は、震災から13年、同校の音楽部で練習中。

【神戸市東区】

阪神・淡路大震災の犠牲者を悼むコンサート「レクイエム・プロジェクト TOKYO 2010」が1月7日午後3時から、東京・築地の浜離宮朝日ホールで開かれ、能楽師の辰巳満次郎が創作した新作の能舞「光明」を上演する。

（塩崎淳一郎）

満次郎は神戸市に生まれ、宝生流のシテ方として東京を本拠地に活動中の50歳。新作能の上演に積極的で海外公演の経験も多い。

震災で亡くなった人を追悼する「レクイエム・プロジェクト」のコンサートを昨年か
始めた作曲家の上田益は、昨年末、能による公演への参
加を満次郎に依頼した。満次

素な形で、能楽の要素を取り入れた「能舞」での参加を快諾。詞章や節付け（作曲）、型付け（振り付け）を手がけた新作「光明」を完成させた。

上田は「神戸で聞いたコンサートでは過去2回、私が作曲したラテン語詞での鎮魂歌などを、コーラスめオーケストラで演奏してきた。今回、



「生と死というテーマは、能楽でも重要なテーマ。レクイエム・プロジェクトに能が役立てれば」と語る辰巳満次郎（左）と、プロジェクトを推進する作曲家の上田益一（右）
（写真：水尾金史撮影）

辰巳満次郎が
新作「光明」

友人を介して辰巳さんを知り、より多様な表現を求めて、能楽の力に期待した」と振り返る。

満次郎は、自らの出生地で、友人や親類も住む神戸の震災は、他人事ではなかった。亡くなった方、心に傷を受けた方に何かの役に立ちたいとの思いがあり、関西出身の能楽師に参加を募った」と話す。

「光明」のシテ（主人公）は女（山内崇生）で、大震災

来月7日、東京・築地

で世を去った恋し
き人の死を闇の中
で悲しんでいる。
その後、15年にわ
たって苦しみ、心

が千々に乱れ、激しく舞う。だが、希望を持って生きることを恋人の意志であると知り、最後は喜びを心に抱いて舞い終える。25分ほどの作品で、囃子方や地謡も参加する途中でコーラスやバイオリンなどの弦楽器も交じりあつた。

「能は、外から見て分かるやすい動きではなく、内面の悲しみや喜びといった心の動きを表現する深みがある。それが、死者を悼むレクイエムと調和する」と演次郎。上田は「異なるジャンルの芸術が参加することで、迫迫と希望という公演の目的がより明確になる」と、手応えを語る。

上田は「来年の神戸での公演でも『光明』を上演する予定。未来への希望を持ち続けるため、今後も辰巳さんらの協力を仰ぎ、レクイエム・プロジェクトを継続したい」と強い意欲でコンサートに臨む。☎0120・2440・540。

芸統



神戸山手女子の会場で決されるコースを模倣する声楽家。神戸山手女子学院卒業

声楽家ら4人 コーラス6曲を録音

[illegible][illegible]

[illegible]

09年1月に居町を襲った豪雨被害で被災した住民らでつくる佐用町合唱団が、8月29日、同町佐用町のありけ文化ホールで初回の本格的なコンサートを開いた。災害や戦争の犠牲者を追悼する「国境の歌の組曲」「レクイエム」「フジエクト」の一編で、この日は、豪雨で大切な人へ思いをよこす「告別曲」も大きな声で歌った。訪れた町民の約400人は、ホールに響く美しい歌声に感入っていた。

(愛原由也)

「大切な人よ」と歌う佐用町合唱団と小中学生ら（佐用町のありけ文化ホールで）

2012年3月29日

[illegible][illegible]

↑月刊「音楽の友」誌 2012年7月号に、プラハ・

ドヴォルザークホールで開催した「東日本大震災・追悼チャリティーコンサートのレビューが掲載されました。このコンサートには、神戸と東京から声楽ソリスト（プロジェクトの指導者でもある）5人と合唱団有志17人が参加し、地元のキューン合唱団、そしてプロ・オーケストラのプラハ・フィルと共演しました。

南相馬に響け鎮魂歌

4月6日、県民ら120人共演

2014

今と生きる

阪神大震災が契機 市民参加型コンサート
レクイエム・プロジェクト



本市本震の犠牲者追悼を希望する市民参加型「レクイエム・プロジェクト」が、4月6日（土）午後7時から市立市民会館で開かれる。市民を中心とした約百二十人の合唱団がオーストラリアの音楽家によって編まれた鎮魂曲を奏鳴する。

レクイエム・プロジェクトは、阪神大震災から十一年にわたる追悼活動の一環として、今年度初めて南相馬市で開催される。この日は、福島県内各地から集まる合唱団や個人参加者が一堂に集まり、被災地の復興を祈り、平和を願う。また、震災から十一年経過後の現状を報告し、今後のまちづくりについて話し合う予定がある。

入場料は無料。中学生以下は無料。チケットの購入は市民文化センター（電話0244-257263）、各町公民館（電話0244-880909）などで行える。問い合わせは実行委員会事務局（電話0244-880909）まで。

チケット販売中

コンサートは座席制。全席指定。大人1000円、中学生以下は無料。入場料は別途必要。チケットの購入は市民文化センター（電話0244-257263）、各町公民館（電話0244-880909）などで行える。問い合わせは実行委員会事務局（電話0244-880909）まで。

[illegible]

犠牲者への追悼の歌声を響かせたコンサート

震災犠牲者に追悼の歌声 南相馬で市民参加コンサート

東日本大震災の犠牲者に思いを寄せる市民参加型コンサート「レクイエム・プロジェクト南相馬2014」は六日、南相馬市民文化会館で開かれ、追悼の歌声を響かせた。

レクイエム・プロジェクト実行委員会と同南相馬実行委員会の主催、福島民報社などの後援。同市の「ゆめはこ台合唱団」など相双地区の約八十人をはじめ、全国各地から駆け付けた総勢約二百人がステージに上った。仙台フィルハーモニー管弦楽団などの有志がオーケストラを担当した。

出演者は、同プロジェクトを進めてきた作曲家上田益さんの指揮の下、福島市の詩人利和亮一さんが作詞、上田さんが作曲した「黙礼」や上田さん作曲の組曲「レクイエム」の目を、あなたを忘れない」などを歌った。

同市原町区の男性（右）は「子どもと犠牲者を思う人の心が共鳴した良いコンサートで、希望をもらった」と述べた。

長崎新聞 2015年5月26日



長崎新聞 2015年9月23日 浦上天主堂で開催した被爆70年の追悼コンサートの記事が1面に掲載 されました。↓



沖縄タイムス 2015年10月24日

長崎2015コンサートに参加した沖縄の児童合唱団員たちは、平和公園で献花した後、原爆資料館の見学、被爆者の方によるお話を聞き、沖縄戦とはまた違う戦争の惨禍に触れました。



ニュースアップ

東京社会部(前神戸支局) 五十嵐朋子

神戸「レクイエムプロジェクト」来年10年

思いを一つにしないでいい。それが、忘れられない人に寄せる思いを重ねよう。阪神大震災(1995年)の被災者による合唱コンサート「レクイエム・プロジェクト」が来年、活動開始から10年を迎える。被災経験を語り合う人たちが集って数々の組曲を生み出し、全国の被災地へと活動を広げてきた。その足跡をたどりたい。

被災者で合唱団

苦しみ 歌に託して
涙の意味を知らない
あの日の悲しみを忘れない
聖なるかな 聖なるかな
永遠の光で
彼らを照らして(上田さん)

「被災した人が、悲しみや苦しみを歌に託せる場を作りたかった」。思いが具体化したのは2008年だった。新聞広告で合唱団を募集し、約60人が集まった。当初は震災15年の10年にコンサートを開くことが目標だった。

体験することから

団の原点となった光景がある。震災直後、神戸市東灘区の神戸文化ホールに、追悼の黒い服をまとった「神戸いのり」と合唱団の約100人の歌声が響いた。指揮したのは、合唱団代表でもあり、歌う主役の曲を手掛ける作曲家の上田さん(61)だ。

大震災の起きた1月17日、東京の自宅でうぜんつとテレビを眺めていた。1週間前に仕事で訪れていた街が炎と煙に包まれていた。「自分ひとりだけ難を逃れたような後ろめたさ」を感じた。

音楽家としてできることはないのかと考えるようになった。神戸市東灘区で約10年からは機軸を転換する光の祭典「神戸ルミナリエ」で流れる音楽の作曲を担当した。

思い重ね 夢と希望全国に



上田さん(中央)の指揮で練習する「神戸いのり」の合唱団。神戸市東灘区、5月、五十嵐朋子撮影

お母さんと呼ぶのがだんだん小さくなって……。最期を知る人に聞いた。母親の気持ちや思い出を思い出した。毎年1月になると、うつむきながら涙が止まらない母親の姿がテレビに映った。「どんな目の中にも閉じこもっていきたくはない。でも会いたくはない。でも会いたくはない」。上田さんは合唱団の話を聞き続けた。「もっと大変な人がいるから、つらいと言えなかつた」。封じ込めた思いを「初めて外に出せた」という団員がいた。その話を聞いた上田さんは「レクイエム」(10曲)を作詞作曲した。

「レクイエム」(10曲)は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。

「レクイエム」(10曲)は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。

団員を募集中

「レクイエム・プロジェクト」は来月1月に予定する10周年記念コンサートに向け神戸の団員を募集中。直近では7月18日午後1時から仙台東の日立システムホール仙台東で公演がある。問い合わせは上田さん(080・5181・6882)。

「レクイエム」(10曲)は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。歌詞は、被災者や被災地を支援する人たちの思いや願いを込めた。

和泉一さんの詩による東北のための組曲「黙礼」、岩手県の詩人、宇部京子さんの詩による「三陸鉄道が行く」。現地の人が詩をつけた。上田さんが作曲するスタイルが定着した。これまでに10組曲、計10曲が誕生し、今も新曲作りに取り組む。

佐田町、岩手県北部、仙台市。神戸の団員が各地のコンサートに出向く。現地の人たちが一緒に歌う。逆もある。被災地にも目を向け、広島や長崎、東京にも活動の輪は広がっている。舞台をともに築き、つながりが生まれた。津波に流された街の光景は、かつての神戸のものとは違いますが「同じ歌を歌っているから、気持ちかわるかな」と交わす笑顔がある。思い浮かべる風景は違ってもいい。思いを重ねよう。「歌い続けることで、忘れずにいられる」と神戸の団員の林田裕子さん(56)は確信している。

昇

昇

2017年(平成29年)8月7日月曜日

混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」初披露

平和の願い歌に込め



「生きとし、生けるものへ」を初披露する合唱団

＝長崎市民会館

上田由美子さん

作詞者で広島市の被爆者

戦争や災害による犠牲者を追悼する「レクイエム・プロジェクト」のコンサートが6日、長崎市の市民会館文化ホールであり、混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」を初披露した。作詞者で広島市に遭った上田由美子さん(79)＝広島市＝がステージに立ち、原爆の惨状や平和への思いを語った。

原爆の惨状語る

プロジェクトは、東京在住の作曲家、上田益さん(61)が主宰。長崎公演は2013年から開き5回目。今年は長崎のほか広島、神戸などから集まった合唱団約130人が、約900人の前で計24曲を披露した。「生きとし、生けるものへ」の合唱の前に、上田由美子さんが登場。被爆後に看病した女学生が外傷がないのに血を吐き、息を引き取った記憶などを明かした。その上で「世界はいっこうに核廃絶へ向かう気配がない。むなしさを感じるが、二度とこのような事が起きないよう訴えなければならぬ」と呼び掛けた。合唱団は平和への願いや命の尊さが込められた歌詞を、澄み渡る声で歌い上げた。

来場した長崎市丸山町の経営コンサルタント、藤澤雄一郎さん(74)は「美しいハーモニーで、犠牲者の無念さや残された家族の悲しみが伝わってきた。人々が手を取り合い、平和な世界をつくるのが大切だと感じた」と話した。

(宮本宗幸)

詩を朗読し、平和への思いを伝える上田由美子さん

被爆

被爆者作詞 合唱曲の楽譜 「生きとし、生けるものへ」

被爆者の詩人上田由美子さん(79)＝広島市安佐北区＝が作詞を担当した合唱曲「生きとし、生けるものへ」の楽譜Ⅱ写真Ⅱが、全音楽譜出版社から発売された。

全国各地で合唱を通じて戦争や自然災害の犠牲者を追悼する「レクイエム・プロジェクト」が、上田さんに作詞を依頼。主宰する作曲家の上田益さん(61)が曲を付けた。全4曲からなる混声合唱組曲で、草花の生命力への賛美や、戦場に消えた少年の思い出を歌詞につづった。

ことしの8月6日に長崎市で初演し、プロジェクトのメンバー約130人が歌声を合わせた。作詞の上田さんは普遍的な命の尊さを筆に込めた。幅広く歌い継がれてほしい」と願う。

来年9月24日には広島県民文化センター(中区)でコンサートを開き、「生きとし」の全曲を広島初演する。合唱団メンバーを追加募集中。☎080(5181)6692。

上田 益

作曲者

「生きとし、生けるものへ」

祈りの歌 未来の希望に

被災者による鎮魂歌合唱 10周年

プロジェクトは、1999年から神戸ルミナリエの会場音楽を作っている大阪出身の作曲家、上田益さん（61）東京都の提唱で始まった。

阪神大震災の被災者たちが、音楽で少しでも苦悩から解放されるようにと2008年、鎮魂曲（レクイエム）を歌う市民合唱団「神戸いのりのとき合唱団」を結成した。

公費で集まった105人のメンバー65人、80代のメンバーもいる。当初は、この初演が終わり、解散の予定だったが、団員の希望で、希望へつなげることを

来月21日 神戸でコンサート

多くの合唱未経験者だが、震災時の経験や思いを語り合い、練習を重ねた。09年から神戸ルミナリエの音楽のレコーディングにも参加。10年1月17日にはレクイエム10曲を歌い上げるコンサートを開いた。

上田さんは週末ごとに各地を駆け回って指導している。「それぞれの地の人々の祈りを作品という形にして、希望へつなげることを」（080・5181・6692）。

阪神大震災などの大規模災害の犠牲者の追悼と未来への希望を歌に込め、被災者たちが鎮魂歌を合唱する「レクイエム・プロジェクト」が、来年で10周年を迎える。1月21日に神戸市中央区の神戸文化ホールで記念コンサートが開かれ、東日本大震災の被災者らを含む総勢約300人が歌声を響かせる。

【本田智佳子】



10周年記念コンサートに向け練習に熱が入る「神戸いのりのとき合唱団」。指揮は上田益さん＝神戸市灘区で

私の役目と願う。大事な人への思いを込めて歌を響かせる。合唱団は、被災者からメンバーの募集。神戸さん（75）神戸市灘区は、当初は重かったが、歌うことで安らぎになっていった。今は、亡くなった両親のことも思いながら歌っている」と話す。

「レクイエム・プロジェクト神戸2018年」と銘打って開かれる10周年記念コンサートには、各地からの合唱メンバーが集まる。曲目は、福島県の人・和泉一さん作詞の合唱

毎日新聞
2017. 12. 23

2017. 12. 29 朝日 朝刊 阪神 13版



コンサートに向けた練習風景の「コマ」団員の輪の中を上田さんが熱心に指導する＝神戸市灘区

追悼・平和歌い10年

阪神・淡路大震災などの大規模災害や戦争などの犠牲者への追悼の思いと平和への願いを込めて、レクイエム（鎮魂曲）を合唱する「レクイエム・プロジェクト」が来年、10周年を迎える。節目を記念したコンサートが1月21日に神戸文化ホール（神戸市中央区）であり、総勢約230人がそれぞれの思いを胸に、祈りを込めた歌声を披露する。

レクイエム・プロジェクト 来月21日、神戸で230人公演

阪神大震災 23年

レクイエム・プロジェクトは、神戸ルミナリエの音楽担当を1999年から務める大阪出身の作曲家、上田益さん（61）が中心となり、2008年に神戸で始まった。

阪神大震災の発生当日、上田さんは東京都内の自宅のテレビで被害の状況を見ていた。「かくせん」として。音楽家としてできることはないのか。思いが形となったのがこのプロジェクト。団員を募集すると約60人が集まった。

活動開始時から参加する青山真理子さん（60）は、神戸市長田区で被災した。近くに住んでいた、当時8歳の長男の同級生一家が、その後、下敷きになり、その後、火災で全員が亡くなった。「自分の家族のことで精いっぱい助けられなかった。泣けなかった。後ろめたい思いを引きつたまま時が流れた。プロジェクトのことを知り、「は」として。歌うことで少しでも寄り添うことができるんじゃないかと。忘れなからね、と」。

プロジェクトは震災から15年となる10年のコンサートで終わる予定だったが、団員の希望で続行。09年に水害に遭った佐用町や11年の東日本大震災の被災地、広島や長崎など被災にもテーマを広げ、現在全国7カ所に合唱拠点がある。上田さんは団員の話を元にした、被災地の詩人とともに練った12曲の組曲など60曲以上を手がけてきた。

今年3月から参加する高橋さん（64）、和子さん（61）夫婦は神戸市中央区で被災し、和子さんの実家は佐用町で水害にも見舞われた。2人は「自分たちに今があるのは周囲のおかげ。いろいろな方々の大事な思いを寄せ合えるコンサートになれば」と話す。

記念コンサートには各地からメンバーが集まり、組曲「レクイエム」のあの日を、あなたを忘れない、などを歌う。午後1時半開演で、一般は前売1800円、当日2300円、高校生以下は前売1000円、当日1500円、高問い合わせは上田さん（080・5181・6692）。

（阪神新聞）

これは、江戸時代の植

は、彼らに負けず劣らず
粹でかつこいい観葉植物
が台に載せられて展ひ示さ
れている。役者たちが着
飾っているのと同じよう
に、植物たちもそれぞれ
趣向を凝らした植木鉢に
植えられている。

それをぞんぶんに味わわせてくれる作品だ。(1811年、大判錦絵、3枚続き、たばこ店の博物館蔵)

た。被災者である団員の
思いを受け止め、曲に反
映しなかったからだ。

印象深かったのが、被
害が少なかった人の多く
が「申し訳ない」という
気持ちを抱えていたこと

ちが明るい表情で歌ってくれたのが忘れられない。詞は全てラテン語。日本語の詞では被災者にとって重たくなり過ぎるの理由もあるが、時間や空間を飛び越えた言説を通し、海外にも云えた

いたい」と言ってくれる人がたくさんいた。福島や岩手、仙台などでも歌うようになり、地元の詩人と共に合唱曲を作るようになった。福島では和合亮一さんと「黙礼」、岩手では宇部京子さんと

演を開いた。14年のオー
ストリアのウィーン・聖
シュテファン大聖堂での
演奏には仙台フィルハー
モニー管弦楽団の有志ら
を含め158人が参加。
終演後の拍手は10分以上
やまなかった。16年には

い　う　う　う　う

いる。大阪で生まれ、関西で作曲活動をしていたが、4カ月前に拠点を東京に移したばかり。衝撃と同時に自分だけが難を逃れたという後ろめたい気持ちにさいなまれた。

震災から10年の節目を迎えた2005年1月17日、ルミナリエの音楽演奏で縁を結んだ音楽家らの協力を得て神戸で追悼

コンサートを開いた。11年を境に、震災の記憶が風化していく危機があった。腹をくくり「最低10年は続ける」と会場で宣言。レクイエムを作曲し

には、近所の賢持がとくに「生き残った私たちが、未来に向かって懸命に生きて行こう」という前向きなメッセージを込めようと決意した。

活動継続へ各地で練習
初演後も、団員の大半
が活動継続を望んだ。続
けるのなら、その思いを
広げていきたい。私の実

く」が生まれた。
コンサートでは他地域
の人も手弁当で参加して
くれる。抱える苦しみや
つらさは異なるが、皆で
分かち合う交流が生まれ

トロ大聖堂などで歌い、ローマ法王に新曲を献呈する栄誉にあずかった。

1月21日には、神戸市の神戸文化ホールでプロジェクト10周年を記念するコンサートが開く。

なうな窓ガウ

阪神大震災の犠牲者を
合唱で追悼しようと始め
た「レクイエム・プロジ
エ」。突きつけられた命
題だ。しかしまずはどう
マ音楽の制作など眼前の
仕事をこなすので精いつ

◆震災犠牲者

神戸カレ

上田 益

図」の2作品があった。それを見て育ったため、平和への思いは強かった。

10周年を迎え記念公演
海外公演も実現した
12年にはチェコ・プラハ
で東日本大震災の追悼

えない世の中。被災者
思いや、平和への願い
歌い継いでいきたい。
えだ・すすも 作曲

と

◆震災犠牲者を追悼 合唱の輪を東北や海外にも◆

上田 益



2016年にはローマ法
リア・アッジンジの聖つら



完成した合唱曲「**クイエム・あの日を、**」は、**「なを忘れない」**は後を朗らかな歌詞と曲で締めくくった。10年17日の初演で、団員

かつて太平洋戦争で、きな犠牲を払った地域、音楽家にも協力してもいい、各地で練習する体を整えて、合唱指導や奏で協力してくれる人々も現れ、その年のうちに沖根と大空襲に見舞われた東京、09年に洪水を受けた兵庫県佐用でコンサートを開いた。11年に東日本大震災に見舞われた東北でもい

2000年、16歳
チーム員
川哲也君
出会いが
会の6年間の始まり
た。私は当時、三井
産の東京ミッドタウ
責任者の一人で、投
は用地費だけでも
1800億円超の
巨費、一日も早い

動 1 が必要だ。縁もない。お
君の大学時代にコンタクト
古し誘致にきつめた
この熱と行動力。を動か
怒とを、私君に彼か
った。それが縁で彼
不動。原にシタの世に
の。ハリウッドトラス
賞額 取締役として活躍中
吾いゴル
ミヤートス
此の誘致で口

不国
グト
情
ここ
は医
軀身
の
たに
フ好
ク一
サン

交遊抄

2001年、16歳若いチーム員、古し誘致川哲也君との熱と行出合いが、怒った。時間的始まりだった。は当時、三井不動産はミッドタウンの、投資額取捨役の一人でも、億円の一日も早い動

だと思えない米国
商務にコンタクト
にきつめた。情
動か人を動かすこ
それは若くは彼から学
ネスの世界に転身
ソフトトラストの
として活躍中だ。
新しいゴルフ好
ミでアトスケー
ルの誘致でロサン

動

二 丁 収益実現と共に三

と「なうな窓ガうはい、う「う。フネ

歌い上げる 鎮魂と希望

岩手・北三陸で続く合唱プロジェクト

東日本大震災の後、北三陸(岩手県)で続く合唱プロジェクトがある。鎮魂と明日への希望を伝える活動は今年、5年を迎えた。ここから生まれた楽曲は全国に広がり、他の被災地との交流にもつながっている。

NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台となった岩手県久慈市。30〜40人の男女の歌声が毎週、市文化会館に響く。歌声を通じて被災地で暮らす人々を勇気づけようとする「レクイエム・プロジェクト北いわて」の練習だ。

始まりは久慈市の隣、野田村だった。約4800人の村を最大18分の津波が襲い、37人が犠牲になった。合唱団「コールわさび」をしながら「背中に向こうでみんな」のメンバー約20人も被害に遭い、練習場所だった施設は浸水。ピアノは壊れ、週に1度の練習は途絶えた。

震災から4カ月後、知人から連絡を受けた東京在住の作曲家上田益さん(62)が村を訪れ、メンバーに会った。2カ月後、電子ピアノを寄贈し、練習が再び始まった。小林友美さん(39)はピアノの伴奏をしながら「背中に向こうでみんな」のメンバー約20人も被害に遭い、練習場所だった施設は浸水。ピアノは壊れ、週に1度の練習は途絶えた。



①作曲家の上田益さん(左)は月に1回は練習にかけつけ、合唱の指導をする。②10月、岩手県久慈市「レクイエム・プロジェクト北いわて」の活動5周年記念コンサート。③7月、岩手県久慈市、同プロジェクト提供

浜辺・海女・鉄道…詩に込めた古里の景色

歌声で全国の被災地とつながる

なが泣いているのがわかった」と振り返る。上田さんは「いつか野田村でレクイエム・プロジェクトをやりたい」と考えていた。阪神大震災後に神戸で始めた合唱企画だ。ただ、「被災直後の場所では始めるのは難しい」と考え、言い出すのを控えていた。

そんな時、野田村出身で久慈市に住む作家宇部京子さん(66)の詩をインターネットで見つけた。とうさんとおなじ 歩幅で すなはまを あるくとうさんとおなじ 背中かいてらる ひろう「とうさんの海」は、故郷の十府ヶ浦海岸をイメージした詩。上田さんは「海女のうた」は「北限の海女」をつづった。上田さんは「失われた古里への思いと希望が込められている」と、宇部さんの詩に次々、曲をつけていった。

2013年の秋、「追悼と未来への希望を込めた合唱企画をやりませんか」と提案した。レクイエム・プロジェクトを北三陸でも始めようとの誘いだった。翌年7月、野田村体育館で、「レクイエム・プロジェクト北いわて」の初めてのコンサートが開かれた。「とうさんの海」「海女のうた」などが披露された。

コンサートは今年7月、4回目を数えた。「コールわさび」の会長大沢和子さん(78)は「みんなが顔を合わせることが救われた。そんな気持ちが一つになって活動が続いている」と話す。

「レクイエム・プロジェクト」は、上田さんが自然災害の被災地や戦禍の地で立ち上げた。神戸を始め、長崎や広島、仙台、久慈などこれまで10カ所で開催されている。「野田村に来てほしい」。上田さんにメールを送ったのは、震災直後から野田村に支援に入っていた、災害ボランティアを研究する大阪大学大学院の環境公衆教授(67)だ。09年、兵庫県佐用町で20人の死者・行方不明者を出した豪雨災害で現地を訪れ、上田さんと知り合った。

各地のメンバーは他の地域の合唱プロジェクトにも参加する。瀬美さんは神戸や「北いわて」のステージに立った。「一緒に歌うことで気持ちが通じる。次の被災地のためのリレーができています」。北いわての作詩を手がける宇部さんも神戸や仙台で歌った。「一緒に歌い、追悼し、交流が深まるかけがえない時間」と語る。

北いわてで生まれた13曲は現在、2冊の楽譜(いずれも全音楽譜出版社)となって全国に広がっている。そのうち2曲は、「あまちゃん」に登場した「北三陸鉄道」のモデルとなった三陸鉄道がテーマだ。

来年3月には沿岸の163キロが1本で結ばれ、「リアス線」として開通する。上田さんたちは列車を貸し切りにして、各地のプロジェクト仲間を呼んで車内で合唱する計画を進めている。(大久保 奏)



三陸鉄道の中心一冊社長(右)に楽譜を送る上田益さん(中央)と宇部京子さん(左) ④10月、岩手県宮古市

「レクイエム・プロジェクト北いわて」で生まれた曲の楽譜

日本大震災救援事業、高齢者のための社

ジャーナリスト 寺島さんの詩で組曲

被災地に希望の歌声を

東日本大震災多くの犠牲者を悼み合唱公演を行う「レクイエム・プロジェクト」が11日、多賀城市文化センターである。ローカルジャーナリスト 寺島英弥さん(多賀城市)の詩に「プロジェクト」を主宰する作曲家 上田益さん(東京)が曲を付けた混声4部組曲「また逢える、いのちの日々かきわけて」が全曲初演される。

レクイエム・11日多賀城で初演

プロジェクトは阪神・淡路大震災犠牲者追悼をきっかけとして2008年に神戸市で始まった。その後、東日本大震災などの災害、広島原爆といった戦災犠牲者を悼み活動の場は増え、

あすへ
東日本大震災

宮城、福島3県をはじめ国内外に広がった。震災10年に当たり、上田さんは、河北新報社編集委員などとして被災地に寄り添った取材を続けてきた。寺島さんに、詩を依頼。曲を付けて、歌にした。

4編の詩には、「亡き子と再会する日まで懸命に生きよう」と決意する母親(石巻市)や、住民の憩いの場だった喫茶店(仙台市)を自指す店主(陸前高田市)、除染で

工藤さんの指導で練習に熱がこもる合唱団

瘦せた土地を次世代のために耕す農業者(福島県飯館村)ら、被災地で出会った人々の姿が描かれている。「自分が聞いてきた被災地の声を、歌という方法で広く伝える機会をもらって進んでいく」と、久慈市の

たと寺島さん。上田さんは「直球の言葉でつづられた詩には、地域が受け継いできた文化や誇りがこもっており、希望を持って前に進む曲にしたかった」と思いを語る。

公演にはレクイエム・プロジェクト仙台合唱団を中心に混声合唱団(仙台市)、女声合唱団(宮城県)、カナリーノ(同)メンバーら約70人が参加。「また逢える」のほか、久慈市の

第44836号 河北新報社 2021年(令和3年) 9月5日(日)

河北新報社
〒980-8960
仙台市青葉区五輪1-2-28
www.hahoku.co.jp

「東は、未来」

総合案内 02(211)1111
読者センター 02(211)1477
ご購読申し込み
0120-09-3746

河北新報

小4~中3対象 受験料無料
一高二高突破模試
9/23(木) 9/17(日) 正午締切

再生へ 心ひとつに

東日本大震災関連記事

多賀城 犠牲者悼む組曲上演へ

震災犠牲者を悼むレクイエム・プロジェクトが11日、多賀城市である。ローカルジャーナリスト 寺島英弥さんの詩に、作曲家 上田益さんが曲を付けた組曲が上演される。

社説 コロナ下の災害支援/被災者の対応力を高めたい

詩人 寺島英弥さんの詩による作品なども演奏される。指揮は上田益さんと三藤三郎さん(仙台メサイアを年指揮している上田益さんは「自分たちに身近な詩で、

ノは菅原昭さん。仙台でのプロジェクトが始まった2013年から毎年指揮している上田益さんは「自分たちに身近な詩で、

これまで以上に気持ちが入る。音楽に込められた悲しさと希望をしっかりと表現したい」と誓う。

午後2時半開演。無料だ。

が整理券が必要。多賀城市文化センターなどで配布している。連絡先は上田さん 080(5181)6692。

被災地、被爆地で合唱団結成「レクイエム・プロジェクト」

歌に続ける記憶つなぐため

震災28年

阪神・淡路大震災をきっかけに生まれ、各地の災害被災者が合唱団を結成して歌を唱えてきた「レクイエム・プロジェクト」が15周年を迎える。15日には神戸市中央区の神戸文化ホールで記念コンサートを開き、全10曲で構成する「レクイエム」を披露。プロジェクトを主宰する作曲家上田雄さん(66)＝東京都＝は「誰かが記憶をつなぐ必要があり、被災地には歌う理由がある」と力を込める。(小嶋綾生)



上田雄さん(左)の指導の下、コンサートに向けて練習に励む神戸の合唱団メンバー――神戸市東山区二葉町7、神戸市立女学院音楽部

「阪神・淡路」きっかけに15年前誕生
15日、神戸で記念コンサート

「レクイエム―あの日を、あなたを忘れない」から「出会いと別れ」の詩の出会いと別れ それは流れ星のようだ 心の中で いつまでも いつまでも美しく輝いている あなただけを失ってから ずいぶん時間が経ちました 元気ですか？ 寒くないですか？ 私が見えますか？ 私は いつも あなたを思い出しています

上田さんは1999年から、光の祭典「神戸ルミナリエ」の会場音楽を21年間担当してきた。音楽家として阪神・淡路の被災地への関わり方を模索する中で、2008年に同プロジェクトを立ち上げ、被災者を中心とした市民合唱団を神戸で設立。翌年から毎年コンサートを開催してきた。新型コロナウイルス禍による中止や無観客公演などを経て、今回は3年ぶりにオーケストラを加えての完全復活となる。

「レクイエム」は、死者のためのミサ曲と訳される。クラシックの1つの形式で、一般的にラテン語の共通の歌詞が存在し、多くの作曲家が曲を付けている。同プロジェクトでは10曲のうち4曲に、日本語の詩をラテン語に訳したオリジナルの歌詞を採用している。

基になった日本語の詩は、プロジェクトの最初の2年間で100人を超える団員から少しずつ聞き取った被災体験から上

田さんが制作した。知り合いの孫が家の下敷きになったのを助けた話、息子の被害が少ないうえに給水車に並ぶのをためらった話…。阪神・淡路の発生から10年以上たった当時でも癒えない心の傷を感じたという。全10曲に上田さんが曲を付けた「レクイエム―あの日を、あなたを忘れない」は10年に完成した。

同プロジェクトは、映画、展覧会の被災地や東日本大震災の被災地、豪雨災害のあった兵庫県佐用町などにも拡大。現在は全国7地域集合唱団が通年活動する。

15日のコンサートには各地の団員も駆け付け、共にステージに上がる。「レクイエム」に加え、それぞれの被災地の詩人らと上田さんが合作した合唱曲など、計8曲を披露する予定だ。

大崎で神戸の合唱団の運営メンバーを務める青山佳弘さん(59)＝神戸市東山区＝は「レクイエムは神戸の思いが詰まった曲。全国の仲間も思いを重ねて歌ってくれる」。妻の眞理子さん(65)は「災害にとまどき、身近な人の死を経験した人に聞く歌、独りじゃないと伝えたい」と語る。

午後1時45分開演。前売り1800円、当日3000円。チケットは神戸文化ホールプレイガイド078・351・3346。同プロジェクト事務局080・5181・6692

(第3種郵便物認可)

有志ら「天草市」
コンサートに向けて練習する地元天草の合唱団体の



長崎の合唱団 来月4日公演

天草から響け

犠牲者悼む歌

被災地長崎で活動する「レクイエム・プロジェクト長崎合唱団」が6月4日、天草市民センターで、地元天草の合唱団体や児童らとコンサートを開催。歌声で熊本地震の犠牲者を追悼し、平和を祈る。

プロジェクトは、阪神大震災 祭典「神戸ルミナリエ」の会場音楽を手がけた作曲家の上田益さん(67)＝東京＝が2008年に神戸市で始めた合唱の取り組み。東京、仙台市など全国7カ所で活動して

熊本地震



合唱を指導する、作曲家でレクイエム・プロジェクト代表の上田益さん

地元有志、児童も参加 練習に熱

いる。

今回は、昨年10周年を迎えた長崎合唱団の初の県外公演で、縁が深い天草を選んだ。各地のプロジェクトメンバーに地元合唱7団体の有志や天草小児童が加わり、総勢約180人が出演。上田さん作曲の命をテーマにした合唱曲などを披露する。天草市出身のバイオリニスト瀬崎明日香さんもゲスト参加する。

14日に、同市の志柿地区コミュニティセンターで練習があり、指導に訪れた上田さんは「災害や戦争で大切な声や失われている。歌を通して、悲しみや未来への思いを共有したい」。参加する野崎正さん(74)＝五和町＝も「災害や苦しみを受けた人々を忘れてはいけない。子どもたちに平和な古里を残したい」と思いを込める。

公演に先立つ6月2日は大江教会(天草町)と崎津教会(河浦町)で献唱する。4日は午後2時開演。入場無料だが、同市民センターなどで配布整理券が必要。(平井智子)

2023年(令和5年)8月21日(月曜日)

中

国



被爆ピアノの音色に合わせて
歌声を響かせる合唱団員

鎮魂歌 被爆ピアノに乗せ 平和記念公園でコンサート

被爆ピアノの音色に乗せた合唱を通じ、戦争や災害で亡くなった犠牲者を鎮魂するコンサートが20日、広島市中区の平和記念公園であった。音楽で平和を祈る活動が続けるレクイエム・プロジェクト実行委員会(東京)が、原爆の日や広島土砂災害から9年目の節目に合わせて企画した。原爆ドーム対岸の広場に据えた被爆ピアノの伴奏に合わせ、県内の合唱団員たち約40人がハーモニイを披露。広島で被爆した詩人上田由美子さんの詩に、プロジェクトの上田益代表(67)＝東京＝

が曲をつけた「コスモスと少年」など9曲を情感たっぷりに歌い上げた。中区千田地区の小中高生たちでつくる千田パンフルット合唱隊もゲスト

出演した。上田代表は「被害が風化しないように今後も繰り返し伝えていく」と話した。

(村上和生)

鎮魂の思い 歌い継いで10年

24日・仙台「レクイエム・プロジェクト」

災害犠牲者を合唱で悼む「レクイエム・プロジェクト仙台」の10周年記念コンサートが24日、仙台市青葉区の電力ホールで開かれる。プロジェクト主宰の上田益さん(67)＝東京＝が、名取市のローカルジャーナリスト寺島英弥さん(66)の詩に曲を付けた混声4部合唱組曲「また逢える」を全曲再演する。

プロジェクトは阪神大震災の犠



コンサートに向けて練習する合唱団メンバー＝8月27日、仙台市太白区

牲者を悼んで2008年に神戸市で始まり、東日本大震災の被災3県など全国に広がった。開催地ゆかりの詩人の作品に上田さんが曲を付けた作品や、上田さん作曲の「レクイエム」などを演奏する。

仙台では13年に始まり10回目。

21年初演の「また逢える」は、寺島さんが相馬市や石巻市で出会った被災者の言葉と心情をつづる。

福島市の詩人合亮一さん作詞の混声合唱組曲「黙礼」なども演奏する。

仙台的約60人に全国のメンバーを加えた総勢約100人が参加。オーケストラ伴奏も4年ぶりに加わる。上田さんは「当時を思い出し、次の世代に伝えることができるのは、歌い継いでこそだ」と訴える。

午後2時開演。入場料は1000円(当日1500円)。連絡先は上田さん080(5181)6692。

中国新聞 2023 年 12 月 1 日

紙面編集・久保川浩光 (第3種郵便物認可) 長

長崎近郊・五島

本社報道部 (095・846・9240) 西彼中央 (095・846・9240)

核なき世界への思い歌に

長崎 7月公演 メンバー公募
レクイエム・プロジェクト

追悼と希望をテーマに歌ほしいと呼びかけている。う市民合唱団「レクイエム・プロジェクト」実行委は、7月に長崎市で開く市の被爆80周年記念事業コンサートに出演するメンバーを公募している。代表作曲家の上田益さん(68)は「平和の意味や命の大切さを考える機会。被爆80年に核なき世界への思いを歌に託して」

追悼と希望をテーマに歌ほしいと呼びかけている。う市民合唱団「レクイエム・プロジェクト」は2008年、阪神大震災の被災地・神戸でスタート。戦争や自然災害で大きな被害を受けた広島、沖縄、仙台などで公演を続けている。長崎合唱団は12年に発足し、現在の団員は約70人。

公募対象のコンサート「レクイエム・プロジェクト」練習は原則として月3回で日曜午後11〜2時間程度、長崎市の市民会館(魚の町)音楽室や上長崎地区ふれあいセンター(片淵1丁目)などで開く。

50人を募集。2月20日まで氏名、電話番号、メールアドレスを明記し、ファクス(03・6701・7174)かメール(requiem@music.nifty.jp)で申し込む。問い合わせは実行委の松本さん(電090・5727・9390)。

(橋本真依)

7月のコンサートで歌うメンバーの公募について発表する上田さん(左)＝長崎県役所

被爆80年 命の大切さ考えよう

ト長崎2025」は7月21日、長崎市の浦上天主堂で開く。県内外の約170人が出演し、オリジナルの18曲を披露する予定。公募メンバーが歌うのは2曲。共に詩人、広島で入市被爆した上田美子さんと沖繩で祖父を亡くした伊波希厘さんが歌詞を書き下ろした。

読売新聞 長崎 2025.02.06

戦災や自然災害で犠牲になった人を悼み、平和と命の大切さを歌で伝える合唱コンサート「レクイエム・プロジェクト長崎2025」が7月21日、長崎市の浦上天主堂で開催される。代表を務める作曲家の上田益さん(68)は「音楽を通して惨禍の記憶と伝承をしていくことは次の世代に思いを託す上で意義がある」と参加を呼びかけている。

プロジェクトは市民らが中心となり、2008年に神戸市で始まった。その後も東日本大震災の被災地や、被爆地の長崎市、広島市などで毎年コンサートを行っている。

被爆80年の今年は、レクイエム・プロジェクト長崎合唱団や、広島市の高校の音楽部、オーケストラなど計約170人での合唱と演奏を予定している。また、新曲2曲を合唱する市民を定員50人で公募する。

2曲は広島出身で入市被爆者の詩人と、沖縄出身の詩人がそれぞれ作詞。歌うことに慣れていない人でも歌いやすい曲になっているという。練習は月3回、日曜午後に長崎市内の練習会場で行われる予定。

上田さんは「プロジェクトに賛同してもらえる方ならどなたでも参加してほしい」と話す。応募締め切りは2月20日。定員に達し次第締め切る。

名前、電話番号、メールアドレスを記入し、FAX(03・6701・7174)またはメール(requiem@music.nifty.jp)で申し込む。

平和へ祈り 合唱団員募る

被爆80年 7月、長崎でコンサート

ナガサキ
平和リレー



347

被爆80年に平和を願う合唱コンサート「レクイエム・プロジェクト長崎2025」が7月21日、長崎市本尾町

の浦上天主堂である。
ステージに立つ約17
0人の一人、同市の小
森厚子さん(79)は、生
後45日の時、長崎の爆
心地から約3・4キロで
被爆した。「歌で原爆
犠牲者を鎮魂したい」
と話す。

約1週間後、母は旧
小長井村(現諫早市)
の親族宅へ避難するた
め、小森さんと兄、姉
を連れて列車に乗っ
た。一方、三菱重工に
勤務していた父は出張
先の熊本から長崎へ帰
ってきた。小森さんた

小森さんが物心がつ
いた頃に母から聞いた
話では、あの日は長崎
市館の浦町の母の実家
にいた。小森さんは爆
風で粉々に割れたガラ
ス片を頭に浴び、母は
小森さんの頭が切れな
いようにと、父は後で
ちと父は別々に小長井
に向かっていたが、同
じ列車に偶然乗り合わ
せ、父が小森さんの泣
き声に気づいて再会で
きした。父は後に「仕事
をしていた熊本への飛
行機からこの雲が見え

被爆80年 鎮魂の合唱

た」と語っていた。

したと?」と不思議に疑問を感じた。小森と

小森さんが小学生の頃、鮎の浦の自宅近くで、おじが営んでいた食

料品店には、後に日本い」と教えてくれた。小森さんは小学校で

母は、被爆した女性合唱を始め、大学まで
たちにお花やお茶を教コーラス部に所属。12
委員を務めた山口仙二
原水爆被害者団体協議
会（日本被団協）代表

さん(2013年82歳)た。女性たちがケロイ「ロシエクト」の長崎公

で死去。カネ物を配達トを理由に差別を受け、演を見て、「被爆当時
していた。山口さんの時、小森さんは「子」の記憶が、私は語の

顔のケロイドが目に入
きで被爆したわけでは
部にはなれないが、歌

り、小森さんが「どうもないのに、なぜか」とがある「と書き、活動

に加わった。「孫たち
が平口で思ひの二尋ら

か平和に移すかに望んでゐるよう願つて

歌いたい」と話す。

プロジェクトは作曲
その二日

家の上田益さんか主
宰し、阪神大震災の機

死者追悼のため08年に

始まった。実行委員会

は長崎公演の合唱参加者を20日まで募集して

いる。コンサート本番

まで毎月3回、長崎市

内て練習があり、参加無料。問い合わせは奥

行委員の松本新子さん

• 112-117 • 0000

【主演】(C) 9曲「プロシアン・フック」

歌詞を手に想いを語る小紋屋は、この一巻の中で

20

「レクイエム・プロジェクト」で歌う合唱組曲の歌詞を手に思いを語る小森厚子さん―長崎市で



疑問を感じた。小森さん自身も被爆者であることを理由に結婚を断られたことがあった。

小森さんは小学校で合唱を始め、大学までコーラス部に所属。12年に「レクイエム・プロジェクト」の長崎公演を見て、「被爆当時の記憶がない私は語り部にはなれないが、歌がある」と考え、活動に加わった。「孫たちが平和に穏やかに暮らしていけるよう願って歌いたい」と話す。

プロジェクトは作曲家の上田益さんが主宰し、阪神大震災の犠牲者追悼のため08年に始まった。実行委員会は長崎公演の合唱参加者を20日まで募集している。コンサート本番まで毎月3回、長崎市内で練習があり、参加無料。問い合わせは実行委員の松本新子さん（090・5727・6660）。

【和田孝治】

「ナガサキ平和リレー」は毎月9日掲載します

2025年(令和7年)2月7日 金曜日

阪神・淡路大震災の被災地に楽曲をささげる「レクイエム・プロジェクト神戸2025」の出演者＝神戸文化ホール



レクイエム、被災地にささげる

中央区

阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼するために書かれた合唱曲を歌う「レクイエム・プロジェクト神戸2025」が、神戸文化ホール(中央区)で開かれた。

神戸ルミナリエの会場音楽を手がける作曲家上田益さん(68)が、惨禍の記憶を歌に託して未来へ伝えようと2008年から主宰。被災者が参加する「いのりのとき合唱団」の活動は、東日本大震災の被災地や広島・長崎などにも広がり、互いに交流しながら思いを重ね合っている。

阪神・淡路30年の今年は

「いのりのとき合唱団」がコンサート

1月25日に開催。黙とう後の第1部では、沖縄戦70年の年に初演された「今この時を」、広島で被爆した詩人による「生きとし、生けるものへ」などの組曲をピアノ伴奏で披露した。

第2部は、10曲から成る「レクイエム」あの日を、あなたを忘れない」を、オーケストラと共に合唱。

「あなたの思い出を大切にしています」あの日悲しみを忘れない」と、団員の思いを込めた詩をラテン語で歌い上げ、約730人が聞き入った。

上田さんは「何年たとうとも、追悼する気持ちに区切りはない。各地で活動が続け、思いを共有したい」と話した。(田中真治)

神戸新聞のオンラインストア

「いいモノがたり」

いしのかげ

テ認い城

震災犠牲者 合唱で悼む

レクイエムプロジェクト



コンサートに向けて練習する合唱団のメンバー

来月13日・仙台公演 詩に思い込め

災害犠牲者を合唱で悼む「レクイエム・プロジェクト仙台」のコンサートが4月13日、仙台市青葉区の日立システムズホール仙台（市青年文化センター）で開かれる。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故をテーマにした宮城発の詩に、プロジェクトを主宰する作曲家上田益さん（68）＝東京＝が曲を付けた混声合唱組曲「なつかしい未来へ」を初演する。

仙台のメンバー約50人と全国の参加者のほか、仙台市長町中と五橋中の合唱部も特別出演し、総勢100人超が出演する。

「なつかしい未来へ」の詩は、宮城県名取市のローカルジャーナリスト寺島英弥さん（68）が書いた。これまでの取材を基に、原発事故で古里を奪われた福島県浜通り地方の人々の心象を表現。荒れ果てた帰還困難区域の現状や古里の人々との再会の願い、若者に記憶を語り継ぐ思いを言葉にした。

上田さんによる組曲は明暗の対比の美しい4曲で構成。「阪神大震災から30年たった神戸では、街並みから震災の記憶が消えていき、被災者は複雑な思いを抱えている。土地の歴史を切り離さず未来をつくる大切さを歌う詩は、各被災地が共感できる内容だ」と話す。

プロジェクトで上田さんが寺島さんの詩に曲を付けたのは、東日本大震災10年の節目の2021年に発表した「また逢える日のちのち」以来となる。

寺島さんは「希望が感じられる音楽に仕上げていただいた。取材と形が違っても被災地からの発信、伝承の方法の一つだと思っている」と話す。

プロジェクトは阪神大震災の犠牲者を悼んで08年に神戸市で始動。仙台では13年にスタートした。現在は仙台、神戸、東京と広島、長崎両市の5カ所で活動する。

午後2時開演。前売り1000円（当日1500円）、小学生無料。連絡先は実行委員会090（36466）18008。

鎮魂の思い 歌声に重ね

レクイエム・プロジェクト

多賀城 創建1300年記念特別公演



鎮魂の思いを込めて歌う多賀城市民合唱団のメンバー

災害の犠牲者を追悼する「レクイエム・プロジェクト仙台」のコンサートが、多賀城市文化センターであった。昨年の多賀城創建1300年を記念した特別公演で、東日本大震災の被災地でもある多賀城の市民合唱団など計71人が出演し、歌声を響かせた。

プロジェクト代表の作曲家上田益さん（68）＝東京＝が作った「なつかしい未来へ」の詩に曲を付けた。昨年の多賀城創建1300年を記念した特別公演で、東日本大震災の被災地でもある多賀城の市民合唱団など計71人が出演し、歌声を響かせた。

「が作った「大切なふるさと」や「とうさんの海」を合唱。友好都市の福岡県太宰府市の子と私たちのビデオメッセージや、観客282人と出演者による多賀城市民歌の唱和もあった。

震災当時、多賀城市の小学校で勤務していた菊池倫子さん（60）＝利府町＝は「震災直後に学校が避難所になったことや、14年間の復興の営みを思いながら、未来へつなぐ気持ちを込めて歌った」と話した。

プロジェクトは阪神大震災をきっかけに2008年に始まり、現在は仙台、神戸、広島の各市などで公演が行われている。多賀城では9日に開催された。一般公募した市民合唱団33人が昨年6月から18回の練習を重ね、仙台、神戸の各合唱団と共演した。